

県外に住む娘が昨春から学校給食センターにパートで勤め始めました。冬休みに帰省した折に話してくれたセンターの内情にびっくりしました。毎日、大量の残飯が廃棄処分されているとのことですよ。

私はかつて中学校教師で担任を長くしました。給食の時間が終わると、残飯が出ることに悩みました。そこで、米飯のときは、教卓の中にしまっておいた塩とラップを取り出し、おむすびを何個も作りました。教卓の上に置き、午後の授業が終わると、塩むすびはなくなっていました。

その話をすると娘は「今は食中毒の心配があるので、そういうことをやっては駄目だ」と言いました。「そうか、駄目なのか。それにしても、もったいない」と思いました。

学校給食の無償化

あるとき私が作った塩むすびを食べて食中毒を起こした生徒は一人もいなかったはずですが、時代とともに考え方が変わってきています。

10日付本紙の月見やぐら「無料文化の是非」を読みました。学校給食費の負担軽減で、小学校の給食無償化が今春から実施される

ことが書かれています。中学校では給食費を払

うのはなぜか、私も同感で疑問です。日本国憲法第26条2項には「義務教育は無償とする」とあります。

新学期からの給食費無償化で使われる税金が、残飯という形で大量に捨てられることがないように、納税者の一人として願っています。食料自給率が低い日本のためにも。

(安曇野市穂高、荻原義重、81歳)



点差

こうさてん